

研究結果報告書

近世日本における唐通事集団の史的研究

所属：浙江工商大学 日本語言文化学院

役職：講師

氏名：許 海華

本研究は17～19世紀の長崎唐通事を対外交渉・交流を媒介する専門的職能集団として、その存在形態と役割を「場」、「人」、「言葉」の3点から具体的に考察するものである。研究成果は以下の通りである。

(1) 研究の基礎的作業として、資料調査を行い、帳簿、書翰、由緒書、日記、外交文書など未公刊資料、そして文集・資料集に散見する長崎唐通事関係の文献記録を収集した。新史料を発見し、翻刻も含めて史料の整理を行った。17～19世紀長崎唐通事の組織・役職から唐通事家系、通事個人の履歴・事績に関して、新しいデータを把握し、長崎唐通事年表作成の作業を進めている。年表の一部を本年度内に申請者所属研究所のホームページで公開する予定である。

(2) 長崎唐通事は主に語学を手段として日本と他国の貿易、外交、情報交換を媒介する職能的集団と注目を集めた。唐通事集団における語学の修習活動、語学による業務執行の実態を具体的に考察した。とくに19世紀に、「本業」とされる唐話学習を継続するなか、異国船来航の影響により、新たに満州語、英語学習に取り組む唐通事語学習得の一端をあらためて検討してみた。研究成果の一部として、第十二回東アジア比較文化国際シンポジウムで「19世紀長崎唐通事の語学習得に関する一考察」と題して研究発表を行った。

(3) 論文「旧長崎唐通事と近代日本の対中国交渉」は明治以降の旧唐通事を唐通事研究の視野に入れ、明治政府の外交事業に進出した旧唐通事や通事家子弟20人以上の履歴を整理し、19世紀60年代から80年代にかけて日本の対清朝中国交渉で果たした役割を明らかにした。対中国交渉で旧唐通事の活動は中国語能力を生かしたことが特徴であり、業務内容によって以下の3つにまとめることができる。

- ① 清使節団、在清公使館・領事館での通訳・翻訳、文書作成、情報伝達、交渉談判など；
 - ② 中国の地方に潜入し、情報を獲得して報告すること；
 - ③ 対中国外交を行うための中国語人材を養成すること。
- 旧唐通事の多様な実務担当から、当時日本の対中国交渉を有利に導くための即戦力として実際に機能したことがうかがえる。

本研究を通して、長崎唐通事は17～19世紀東アジア地域に存在する「通事」集団の典型というべき、貿易往来、情報伝達、対外交渉、人員・文化の交流を媒介する重要な職能的集団であり、そしてその人材を育て蓄える組織であることを歴史的評価としてあげることができた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 19世紀長崎唐通事的語言學習(19世紀長崎唐通事の語學習得に関する一考察)、許海華、第十二回東アジア比較文化国際シンポジウム「東アジア文化交流——古代文学の共生」、2014年10月25日、中国 杭州 浙江工商大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「旧長崎唐通事と近代日本对华交渉(旧長崎唐通事と近代日本の対中国交渉)」、許海華、『浙江外国語学院学報』総第132期、2015年3月

2. 「東アジアにおける長崎唐通事の成立」(2015年10月投稿予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)